

豊庄だより



第 744 号 2023 年 2 月 13 日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

先々週の金曜日、2月3日は節分でした。豊庄保育園では豆まきをしました。各クラスに鬼さんがやってくるので、豆代わりにボールを投げて撃退するという催しでした。当日は子どもたちが阿鼻叫喚(あびきょうかん)しながらも、鬼に向かって必死にボールを投げていました。うまく鬼と共に邪気を払うことが出来たのではないのでしょうか？中には豆まき以降、野菜を食べられるようになった子も！鬼さんとの約束を守ってくれる子が多いようです。(外からの影響である恐怖が原動力になるのはあまり良いことではないので、内からの影響である約束を守ることが原動力になってくれていると思いたいです。)

さてそんな催しの中、ゆり組さんとひまわり組さんから質問が飛んできました。「鬼さんって人なの？」「鬼さんの中の人是谁なの？お米の時の



JA の職員さん？」「〇〇先生と〇〇先生？(正解を当てられていました)」というものでした。何人かは鬼の正体を知ることによって怖さを和らげようとして聞きに来たようですが、中には「子ども騙しなんでしょう？」といった心持ちの子もいました。そこで質問に答えるために鬼の正体についての考えを記します。結論だけ先に書くと、「節分の鬼などは儀式であるので、子ども騙しであったり、中に人が入っていたりしても良い」です。

鬼とは何でしょうか。まず世界に目を向けてみると、様々な国に鬼にあたるものは存在します。鬼という名前ではありませんが「悪魔」「悪神」と呼ばれています。仏教では煩惱や退屈といった修行を妨げる要因に関

する悪魔が居ます。これらは病気や災害の権化であったり、人の心の弱さに付け込んで唆(そそのか)してきたりするものです。それらが示しているものは共通で、人間の手に負えない悪しき物、—邪気です。つまり鬼の正体は邪気の具現体だと言えます。実は鬼の正体のヒントは、豆まきの前に保育園で聞いた、豆まきの由来についてのお話にあったのです。そのお話の中は「鬼には種類があって『怒りんぼ鬼』『いやいや鬼』『泣き虫鬼』『好き嫌い鬼』『風邪ひき鬼』といった鬼がいます」というものです。これらの邪気を祓(はら)い無邪気な子





どもに育てて欲しいという催しが豆まきなのです。邪気の多くは人から起因しているものです。そして邪気にあてられた人は別人に変わってしまいます。子どもの良くない行動でお母さんやお父さんを怒らせると、怒りんぼ鬼さんになりますよね？これと同じように、自身の邪気に染まった鬼さんを用意し、豆をぶつけることで自分の邪気を退治します。だから豆まきで重要なことは「鬼が自分の邪気の具現体」という事だけなのです。子どもだましでも、中に人がいても何も問題ありません(とはいえ子どもの間くらいファンタジ

ーな世界を見せてあげたいものですが…)。今回は普段みんなを観ている人がみんなの邪気を請け負って鬼になってくれました。「鬼の中に人が居る！」ことを子どもが本心で理解したら、その上でフィクションや儀式を楽しむ方法を教えてあげてください(でも本心で思っているのかどうかを見極めるのは難しいです…)。桃太郎の話など儀式ではない鬼についての話もあるのですが、またそれは聞きに来て下さい。(子どもたちが聞きたいのはこっちかなあと思ったり)

話は変わって、子ども達は豆まきが終わった後「泣かなかったよ！」と胸を張って言うてくれる子が多かったです。もちろん恐怖にある程度の耐性が付くことは進歩ですし必要ですが、実は泣くことは体にも心にも非常に有用なことです。泣くことによって血圧が低下し、お風呂に入る以上のリラックス効果が得られます。また発汗や発熱などによ



って運動後のような心地よい疲労感が得られます。泣くことは人間が進化の中で手に入れた最も効率的なストレスコントロール方法です。だから必要以上に泣くことを忌避せず、「とっても怖かったら泣いてもいいんだよ」と言ってあげてください。泣き声が五月蠅(うるさ)いのくらいは我慢しましょう。みんな通って来てるんですから。



お便りを書いていて思ったのですが、真に豆まきが必要なのは、むしろ邪気まみれの大人の方ではないかなあと思いましたが、ストレスまみれの大人こそ、もっと泣いた方が良くないと思いません。

※今号は舜先生の文章です。写真は私(園長)が撮りました。赤鬼と緑鬼を追いかけ、シャッターを切り続けました。500枚近く撮り、CDR2枚に記録しました。貸し出しています。